

🧊 今ここで頑張っています 🧊

「その時々、自分らしく」

プロクター・アンド・ギャンブル ジャパン株式会社
今泉 なつ美 (新制46回)



中学・高校時代をアメリカで過ごし、大学に入学した当初、周りは見事に男子学生ばかり。カルチャーショックの連続で、また授業にもなかなかついていけなかった。周りからもこんな女子学生がいるんだ、と驚かれていたと思うが、たくさんの友人に恵まれたことが幸いだった。研究室でも先輩、先生方に助けられ1998年宇佐美・桐村研究室を卒業（修士課程修了）し、消費財メーカーのP&Gに入社した。毎日研究室で十時間も微生物と向き合うことにも慣れて自分だったが、やはりヒト、消費者と向き合せて製品開発ができることに大きな期待を寄せて神戸での暮らしが始まった。

入社して、はじめに思ったこと。慣れ親しんだアメリカ文化だー。なんだか懐かしい。自由な雰囲気ですべての研究所にもキラキラ（いやギラギラ？）女性が多いのも嬉しかった。働きやすい環境で気づくと入社からもう20年以上、、！！

入社前に受けた匂いのテストでどうやら嗅ぎ分けのできる鼻の持ち主であることが判明し香料部門への配属からのスタートだった。毎日洗濯機に顔を突っ込んで匂いをかいだり、布用消臭剤の消臭対象である臭いの強さを判定したり、調香師の方と一緒に働きながら開発を学ぶ毎日だった。その後、洗濯洗剤の開発、柔軟剤の開発の仕事をした。

とりわけ東南アジアの柔軟剤の仕事は非常に良い経験だった。ベトナム市場への製品の導入時には1年に6回もベトナム出張をし、消費者宅訪問やインタビューを数多く行って製品開発に役立てた。その最中、妊娠がわかったので正直、出張に行けなくなってこの先どうなるのだろう、と不安でいっぱいだった。不安の中？出産後1年の育児休暇を終えて職場復帰時にはもとの職務には戻れず残念だった。戻ったとしても到底出張は無理だったので今から考えると良い転機だったのだが。

そうして配属になったのが、レギュラトリーアフェアーズという部門。担当製品も洗剤ではなく化粧品品の担当となり、今まで全く知らなかった薬事法を

一から学ぶこととなった。

やがて下の子ども生まれ、子育てに追われる日々。恵まれたことに子供たちはとても健康で病気も少なくまた保育園や学校を嫌がることも全くというほどなく今まで子育てで悩むことはほとんどなかった。

4月からは下の子ども小学校最終学年。最近では2人の子供たちは食べるものさえ用意すれば、すっかり手がかからなくなり、逆に遊んでもらうにはこちらからお伺いをたてる必要があるほどで寂しいかぎりだ。

仕事では開発からはずれ、最前線から退いた感がぬぐえず、悶々としたこともあったが、数年前には業界の中でもニュースとなったしわ改善という新しい効果をもつ薬用化粧品の承認を取得することができたこと、工業会活動のなかで輸入化粧品にのみ必要だった輸入届の廃止を達成し規制緩和ができたことなど、それなりの成果をあげることができたことと自負している。社内的にはアジアの製品開発の拠点をシンガポールに移し数年が経った。これからはますます日本の存在価値やニーズを的確に伝えることが大切になってくる。

振り返ると、この10年はいかに子供たちと楽しく時間を過ごしながらか仕事をこなせるか、一生懸命だった。最近では子供たちの成長と共にこんなにも時間的余裕ができるのか、と戸惑うほどだ。幸い周りには、お手本となる働く女性が数多くいる。子供を連れて母子で海外赴任する人、子供が大学に入学しすっかり手が離れたことを機に違う地で新しい挑戦する人、趣味の幅を広げ仕事とのバランスをうまく保つ人、昇進して組織のためにバリバリ仕事をこなす人。

まだまだ先が長い人生。これからもどのような道が自分らしいのか試行錯誤していくのだろう。そのような中で、若者（今年度応化生が入社しました！）とも協働して世界に向けて日本を発信していこう、と日々奮闘している。